

目次	1	GraSPPの国際化に思うこと [那知信恵]
	2	研究室の窓から [長谷川榮一] / When West Meets East [Shaun Ketch]
	3	留学生インタビュー [Jongwon Leeさん + Ilya Vasilenkoさん]
	4	Pre-Graduation Ceremony and Reception @ Kojima Hall and Capo PELLICANO Hongo, July 31, 2012

## GraSPPの国際化に思うこと

那知信恵 国際企画チーム シニアプログラムマネージャー

設立2年目のGraSPPに初めてお世話になった時、GraSPPに交換留学プログラムはまったくありませんでした。「これからの学生がどんどん世界に出て行かなければ日本は次の時代に生き残れない、国際化なくして東大も生き残れない」、そういう先生方の危機感と熱意によって、この7年の間にGraSPPはずいぶんと国際的になりました。交換留学プログラム(7校)、東大で初めてのダブル・ディグリーの導入(5校)、国際プログラムコースMPP/IPの新設、キャンパスアジアでの日中韓学生交流、念願のGPPN(世界トップレベルの公共政策大学院のネットワーク)への正式加盟と、気がつけば学生265名のうち83名を世界約30ヶ国・地域から来る留学生が占め、授業の1/3が英語で行われるようになりました。廊下を通る学生たちの会話も、ここ数年で中国語や英語だけでなく、一気に多言語になりました。おそらく人文系の中では東京大学で最も国際交流が活発な大学院と言えるでしょう。職員たちにとってもとにかく初めてのことで、多方面にご面倒をおかけしながらも、原野を切り開く開拓者(の女房?)のような気持ちで、手作りの国際化に取り組んできました。

こんな仕事をしていても、実は私は3週間以上続けて日本を離れたことがない根っからのドメスティックな日本人なのですが、20代ころから見る人によって国籍不明と思われることがありました。ここ数年、公共政策大学院の先生方と一緒に、MPP/IPの周知活動と奨学金プログラムの入試説明会のために、アジアの国々の中央銀行や財務省に出かけています。そのせいか、国籍不明の傾向に拍車がかかっています。ハノイに行けばベトナム人?と言われ、マニラではタガログ語で話しかけられ、ムンバイでは領事館の運転手さんと30分以上話した後で、現地のインド人スタッフと間違えられていたことがわかり、ヤンゴンでは名刺交換の相手に、「あ、あなたミャンマー人じゃないの」と言われ、はたまたJALの機内では後ろの人

まで日本語で話しかけていた日本人の客室乗務員が、私のところで英語にスイッチなどなど。

2012年9月27日。MPP/IPが出来てから初めての学位記伝達式がありました。心配された雨もなく、修了生に学位記が渡されました。留学生とおめでとうのハグ。すると"This belongs to you! スタッフの皆さんがいてくれなかったらここまで来られなかった!!" きれいな袴姿の留学生はそう言って手にした学位記を私に見せてくれました。第1期生の卒業とあって感慨ひとしおでした。

グローバル人材の育成という言葉が世の中であふれていますが、単に国際経験がある人ならどこにでもいます。国際的な視野を持ち、さらに将来世界に貢献できるような人材が、ここGraSPPから育っていけるよう、またそのための最高の環境を作れるよう、微力ながらチームの職員一同これからもお手伝いをしていきたいと思っています。



## 私の英語奮戦記

教授

長谷川榮一



英語に絡んで印象深かったのは、当時の総理訪英時に、首脳会談後の記者会見をどう取り運ぶかを、内閣広報官として、ブレア首相と直接議論したことです。私の方は、時差9時間の中で、眠気もあり、先方は英語の母国の首相です。しかし、ブレア首相が気さくに「日本側のプレス担当者は、どなた？」と尋ねて下さったので、「でたとこ勝負」で何とか役割を果たすことができました。記者会見でゲストを立てる、これがブレア流のもてなしだと感じました。

世界は、先進国でも途上国でも「英語が常識」です。数少ない例外がこの日本。英語ができない人は国際的には二軍選手です。仕事だけでなく交友面でも、外国語が一つできると友人は10倍増え、二つできると100倍増えます。日本の今後を担う皆さん、目の前の苦戦を厭わずに、成功への途を歩んで下さい。

今でこそ英語で授業し、学生を英語で審査したりしていますが、私の英語人生が始まったのは30歳の時でした。学生諸君に「こんな人でも英語をマスターできたのか」と自信をもってもらう(呆れてもらう?)ことを祈って、告白することにしました。

大学卒業後、通産省に入り「犬のように働いた(working like a dog)」のです(ビートルズです。知ってる?)。入省6年目に留学を希望し、米国のFletcher School of Law and Diplomacyが寛大にも私を受け入れてくれました。最初はアクセントも不十分で英語が通じず、他人の英語も聞こえませんでした。周囲の学生は年下ばかり。恥ずかしいし、悔しいし。だからと言って米国の大学院に入った以上、言い訳無用。自分を追い込み、辞書を引きながら、とにかく本を読みました。

帰国後、英語を使うポストに配属されたことはラッキーでした。レーガン大統領がソ連に攻勢防衛をかけるためのSDI(戦略防衛構想)交渉では、毎月ペンタゴンに通いました(交渉の中身の方は私のクラスでやります!)。その後、米国勤務になり3年間滞在。当時は、貿易摩擦が熱かった頃で、英語が日常でしたので、今よりもずっと上手でした。今は財務長官のガイトナー氏や先の国務長官だったライスさんとも、意見交換をしたり食事をしたり。米国はオープンな国です。

帰国後、中国、韓国、インドの担当になり、アジアでも英語が好まれていることを実感しました。交渉時も、英語の使い手であると相手にインパクトを与えました。21世紀になってからはAPECのSOM(高級実務者会合)を経験し、アジアだけでなく南米の国でも英語教育が強調されていました。



## When West Meets East

Shaun Ketch (2nd Year, MPP/IP)

I first studied in Japan as an undergraduate exchange student, and even though I took a few Japanese language courses at my home school in the United States, I was certainly not prepared for life in Japan (I'm sure some of my classmates at GraSPP can relate!). After many funny and distressing experiences trying to adapt culturally to an exciting and new place, I finally struck a smart balance between stubbornly maintaining all parts of my own cultural identity and doing things the Japanese way. It was then that I started to feel at home in Japan (I hope my classmates can relate to this, too!). After graduation, I went on to work for a Japanese law firm.

I always knew that I wanted to go to graduate school. I quickly determined that after living and working in Japan, my personal and academic interests were now mostly Japan-centered. I then started looking for US-based schools that would allow me to study in Japan, and found out about GraSPP after sending an email to Columbia University about graduate exchange opportunities in Japan.

While there are many schools in Japan that are international student friendly, GraSPP, to quote Dean Ito, "is the most cosmopolitan Japanese campus, and provides both Japanese and non-Japanese equal footing in competing and cooperating on group projects." I wholeheartedly agree.

My most cherished experience at GraSPP was the 2012 Study Trip to the Tohoku region. Although a year and a half had passed since the tsunami devastated northern Japan, reconstruction had yet to begin in many areas. We were allowed access to local mayors, hospital directors, NPOs, local business owners and residents, graduate students, and temporary housing leaders throughout the region. After identifying which policy challenges remained in the region, our group—a cohesive mix of both Japanese and international students—were able to apply skills acquired in the classroom to a real and sensitive event, and make informed recommendations to our alumni and colleagues.

As a second-year student at Columbia University's School of International and Public Affairs (SIPA), I continue to study US-East Asia relations and East Asian security under highly regarded specialists on the region. This dual program has provided me with an understanding of economics, diplomacy, and security from both Eastern and Western perspectives, and I hope that this understanding will allow me to help strengthen ties between the US and Asia in meaningful ways after school. Though the dual degree is an amazing opportunity, I could have easily stayed at Todai for year two. I already miss being on the Hongo campus. I'm sure the Gingko trees look amazing now! I also miss studying with the brightest and kindest the world has to offer. Best of luck to all of my amazing colleagues at Todai!



# 留学生

## インタビュー

### 第3回

— お二人とも日本語が私より上手だと伺いました。

**Ilya (以下I)**：4歳から住んでいたサンクト・ペテルブルクで、日本語と日本文化にずっと触れていました。インターネットで日本語の字幕がついた映画『蛇とピアス』やアニメ『攻殻機動隊』を観ていました。あとは商社の駐在員で来ている日本人の友達と話したり。在サンクト・ペテルブルクの日本総領事館も文化交流に熱心で、日本映画フェア、日本語スピーチコンテストなど、いろいろな催しをやっています。

**Jongwon (以下J)**：早稲田大学国際教養学部に入學したときに、留学生は6単位の日本語学習講座が必須でした。そのおかげで、長時間日本語で話していてもあまり疲れなくなりました。私も『攻殻機動隊』は観ました。『攻殻機動隊』は、ハリウッド映画『マトリックス』シリーズの監督、ウォシヨウスキー兄弟が影響を受けたと明言している映画です。

— 日本の文化や風習で独特だと思うものはありますか。

**J**：メイドカフェは一度行きたいと思っていますが、行く勇気が出ません(私も!とIlyaさん)。あとはコスプレと渋谷のギャルでしょうか。

**I**：金曜日の夜の電車で寝ている酔っ払い。外国ではとてもじゃないけどあんなのは不可能です。路上で酔いつぶれている人はロシアにもいます。店を出た瞬間に倒れている人もいます(笑)。ロシア人のほうが酒量は圧倒的に多いです。とはいえ、近頃はロシアでもお酒を飲まない人が増えてきました。私もお酒をやめました。

— 授業はどうでしたか？

**I**：Transportation Policy(日原勝也先生、岡野まさ子先生、吉田雄一郎先生)は、ゲストスピーカーも多数招き、フィールド・トリップもあって、とても面白かったです。学生のプレゼンテーションに関して言えば、途中で一度発表する機会があれば、先生と生徒で議論を深めてさらに良いものができたのではないのでしょうか。テーマが面白かっただけに、その点が心残りです。

**J**：MPP/IPは経済系の比重が高いのですが、これは自分の希望どおりでしたし、いい刺激になっています。ただ、学べ側に事前に経済学の基礎知識があったほうが、GraSPPの強みが活かせるのではないかと思います。



Jongwon Lee さん

(韓国出身)

MPP/IP コース2年



Ilya Vasilenko さん

(ロシア出身)

MPP/IP コース2年

— 日本人と日本社会に関して驚いたことはありますか。

**I**：日本人と日本社会がとても競争が激しいことに一番びっくりしました。天然資源もなく、(政府も企業も)マネジメントは保守的で硬直的だけれど、国家も破綻していません。日本では基本的にfairとhonestが行動基準になっているからでしょうか。

就職活動も日本は大変だなと感じます。ロシアの学生は日本ほど大企業志向ではなく、自分を気にしてくれた中小企業のほうが能力を発揮できると思って中小企業に就職する人も多いです。

**J**：個人的には、韓国のほうがずっと競争が激しいと思います。韓国ではサムスンのような大企業でも、幹部になったところでいつクビになるかわからないので、みんな必死です。友人の父親がサムスンの幹部なのですが、朝の6時出社は当たり前だそうです。すべてが相対評価なので、学生は学校の成績も周囲との競争ととらえています。就職活動の競争もかなり激しいです。日本と同じで大企業志望の学生が多いのですが、異常に高い大学進学率、そして大企業や中堅企業の数が少ないために、競争が一層激しくなっていると思われます。また、日本に比べて他人への気配りや思いやりが足りないのも、厳しい競争社会が原因かもしれません。

— 就職はどうするつもりですか。

**I**：日本で就活します。ロシア人が経営するコンサルティング会社などを考えています。この会社は、日本の技術や企業をロシアに招聘する仲介をしています。

**J**：早稲田大学、そしてGraSPPで勉強できたことは運が良く、恵まれていました。最近では自分の使命について考えるようになり、今までの恩返しの意味も込めて、アジアでのより高いレベルの地域協力に貢献したいと思っています。政府機関でも国際機関でも、アジアの経済協力を促し、東南アジアの発展に貢献できるような仕事ができる組織が希望です。さまざまな選択肢がありますが、どの道(組織)を選ぶにせよ最終的に目的を達成できればいいと考えています。

(インタビュー・文責 編集担当)



**Pre-Graduation Ceremony and Reception**  
 @ Kojima Hall and Capo PELLICANO Hongo  
 July 31, 2012



**編集後記**

「国際化」と聞いて頭に浮かぶのが私の母です。以前、実家のそばにパキスタン人の家族が越してきたときには赤ちゃんがとても可愛かったもので、毎日「おはよう、可愛いわねえ」と声をかけていました(日本語で)。ニューヨークに行ったときには、英語ができないので、デリのお兄さんに「お代はここから取って」とばかりに掌にありったけの小銭を載せ、お兄さんが笑いながら料金分を取っていました。先入見なしにオープンな心で相手に接する……簡単なようで難しいことだと思います。(編集担当)

**NEWSLETTER**  
 第30号

[編集・発行] …… 東京大学公共政策大学院  
 GRADUATE SCHOOL OF PUBLIC POLICY  
 THE UNIVERSITY OF TOKYO  
 [発行日] …… 2012年10月31日  
 [デザイン] …… 安孫子正浩(水蒸気図案室)

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 tel 03-5841-1710 fax 03-5841-7877  
 E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp>